

# 《総括》 21世紀のライフスタイルを考える特別委員会

21世紀のライフスタイルを考える特別委員会委員長 梶原光恵

ごあいさつ

一昨年9月吉津耕一氏の講演以来、2年に亙り続けて参りましたが「都会と農村」「東京の住まい」「教育」「結婚」「脳死・現代医療」「介護」と一応初期の目的を達し、一旦ここで総括したいと思えます。ご協力ありがとうございました。

20世紀の世紀末に生きる私たち日本人は、分業化が進み、食べることや自然の猛威から身を守ることを他人任せにし、命を懸けることなど全く無くなった。田舎も1961年に施行された農業基本法により所得格差がなくなり、都会と価値観が変わらなくなった。ティファニー・ブラダ、偏差値、ゴルフ。兼業農家が殆どとなり、川遊びをさせない親から育てられた田舎の子供はひ弱になっている。全国のどんな田舎の小学校にもプールがあるのだ。

個性化を標榜して久しいが、自分たちの土地の他にはない魅力を存分に活かすことが大事なはずだ。そして命が危険にさらされる事で「生きる」ことを実感し、頑張ることができる。「安全」に飼いや馴らされ、親の「人形」、学校の「管理」、会社の「管理」からはみ出た人々は居場所がない。最近様々試みがなされているが、やはりもっと野性を取り戻さなければいけない。

常に自然に触れ、太陽や風・雨・嵐から刺激を受け、土の恵みに感謝し「生きている」喜びを実感しなければ。しかし田舎にいても農業汚染された土壌からは喜びも半減されてしまうだろう。今の日本では都会も農村も変わりがない。同じように駄目になり、同じように変わろうとしている。今回、新農業基本法の答申で、株式会社の農地取得を条件付きで認めたが、いくら農家の反発があろうとも跡継ぎを出せない現状では企業の進出は欠かせない。食料自給率は大事なのだ。だが都会の子供と同じ教育を受けた農家の子供は同じ価値観でサラリーマンになりたいのだ。親も都会と同じ生活がしたいと子供も1~2人。新築の家は日本全国規格サイズ、間取りも同じ。子供部屋や寝室なんかより縁側や襖を取り外して大広間になる和室の方がよほど大事だと思う。田舎でも離婚したり、結婚できなかつたりしたら核家族も崩壊だ。

最近の医学・科学の進化で夢想することがある。ここまで文明が発展すると男と女でいる必要がなくなり、男も手術によって子供が産めるようになる。アメーバーのように自分で自分の分身を作り出すのだ。一緒に子育ての経験を語り合ったりするで女友達のような関係になるのももうすぐのような。

ま、現実に戻って教育を考えると、核家族や母子家庭で育てられ集団で生活したことの無い子供が増え機械としか接触できない子が問題になっている。

また先日は養護老人ホームを見学したが、最期はまた集団生活である。

このまま集団生活をしないで子供たちが成長し大人になるのは心配だ。社会生活に適合できない若者が大半になれば、社会そのものが崩壊しかねない。

本来、赤ん坊から老人まで全ての人々で構成されるのが社会である。それが孤々に構成されるようになってしまう。子供たちの親の世代も社会性を完全に身につけているとは思えない。神戸の事件を考えても不安なのである。

私は社会性は社会で教えるしかないと考える。昔は若者宿や青年団があり、その中で教えられたが今は無い。食事の前の感謝である合掌すら宗教的だと禁止する(富山県)教師たちの常識は疑うが、やはり現代では学校教育の中に組み込むべきである。私は第2反抗期に入る中学1年の5月から1年間、親元から離して寮生活をさせその世話には各市区町村の役所や寺社教会の協力、卒業生のボランティアで構成する。毎週日曜日のみ帰宅させ夏休みも冬休みも盆・正月それぞれ3日間以外は病気を除いて帰宅させない。

本来家庭で教えるべき道徳・倫理、社会生活のルール、宗教も地域に連動して例えば伊勢神宮・出雲大社・宇佐神宮等のある地域ならその歴史的背景として神道を、円覚寺・浅草寺・東大寺等のある地域なら仏教を、浦上天主堂・五島列島等ならキリスト教を必ず教え、それ以外の地域でも戦争で出陣する時参った氏神様や落ち武者の塚など昔なら土地の老人が教えたような話をして子供たちを教育する。

また土地の保育園や老人ホーム、病院、消防署、警察署、鉄道会社、銀行、農家、スーパーを訪ねてお手伝いをする。社会生活はこうして営まれる、自分もお陰を干被っているのだと言うことを実感させるのだ。連帯していると思えば簡単には自殺など出来なくなる。

それから子供は機械ではないのだから、成長して育っていく。その証しとして儀式が必要なのだ。一人で何かが出来ると言うこと。50kgある岩をみんなて神社の境内まで運ぶとか、町内の各家から一つずつ任意の材料をもらって料理を作り町内の人を接待するなど、それを祭りとして町内全体で子供の成長を祝うといい。今巷ではアフリカの成人を表す習俗である鼻輪や唇にまでピアスをしている若者をよく見かける。残酷・自虐的なファッションは好みではないが、そういう成人のスタイルのない日本で必死に自己を表現しているように見える。受験戦争に勝つしか成人の証しがないのである。万引きやバイクの暴走も成長した自己を証明する手段なのである。勿論間違った自己表現である。

今の子供は赤ん坊の時から金で買ったおもちゃで育っている。リカちゃん人形・テレビゲーム・アニメそのほか何でもゲームメーカー産業の市場として確立され大人たちに操られているのである。一昔前には自分たちで知恵を絞り、工夫を凝らして作っていたおもちゃも、もはやそんなことの出来る子供は皆無になった。もの作りを3Kの仕事と思っては本田もソニーもない。料理もおもちゃも洋服も机や椅子まで何でも金で買って子供に与えるから子供が金権主義に染まるのである。

父親不在と言われるようになって久しいが、テレビとゲームがあれば家庭で父親は必要ない。昔、男は家を一步外へ出ると七人の敵がいる、と言われた。だからこそ男は家では大事にされた、思う通りにやらせて貰えたのである。ひきかえ現代ではどうか。女性の社会進出が多くなると、闘っているのは女の方という状況になったのである。そういう女性にとっては「頼れる男性」より「やさしい男性」のほうが救われる。第一「頼れる男性」は社会進出するような女はお嫌いだろうから。といってしまう世の中後